

# まちがいさがし クイズ

## 問題

上下の絵を見くらべて、  
まちがいを8カ所見つけてください。

### 応募方法

ハガキまたはファクスに、①答え(右の絵に○をつける)・②住所・③氏名(ふりがな)・④年齢・⑤電話番号・⑥広報紙の感想、ご意見などを書いて応募してください。なお、当選者のお名前を広報がまごおり7月号に掲載しますので、ご了承ください。

### 送り先

〒443-8601 旭町17番1号  
企画広報課「クイズ」係  
FAX66♦1190

### 応募締切

5月17日(火)当日消印有効

### プレゼント

全問正解された方のうち、抽選で10人の方にクオカードもしくはラグーナの湯無料利用券をプレゼントします。なお、賞品は7月初旬に郵送します。



## 「なかっぱらの石薬師」(柏原町)

むかしむかし、ある里に一軒の貧しい家があった。生活は苦しかったが父親と一人娘が幸せに暮らしていた。

娘が14になったころ、父親が重い病気にかかってしまった。すると娘は滝で身を清め、日ごろから信仰する薬師仏に「父親の病気が治りますように」と毎日お祈りをした。

娘が滝で祈りを始めてだいぶ経ったころ、一人の旅人が娘親子の家に訪ねてきた。「しばらくの間、泊めてもらえないだろうか」と旅人がたずねると「何も構いませんが、こんなきつい家では泊まれません。どうぞお泊まりください」と娘は嫌な顔一つせず、快く迎え入れた。娘は自分たちが食べるための少ない米と野菜で、旅人をもてなした。旅人は娘の親切に感動して、奥で寝込んでいた娘の父親の病気を診てやることにした。すると不思議なことに父親の病気が治り、畑を耕すことができるようになった。

娘親子の話はたちまち村で評判になり、我も我もと旅人のところにやってきては、病気やけがを治してもらった。

しかし、しばらくすると旅人は急に姿を消してしまった。そこで娘親子は感謝の気持ちを入れて薬師様の石像を作ってしまったことにした。すると不思議なことに、村人がこの薬師様にお祈りするとみな病が治り元気になるではないか。

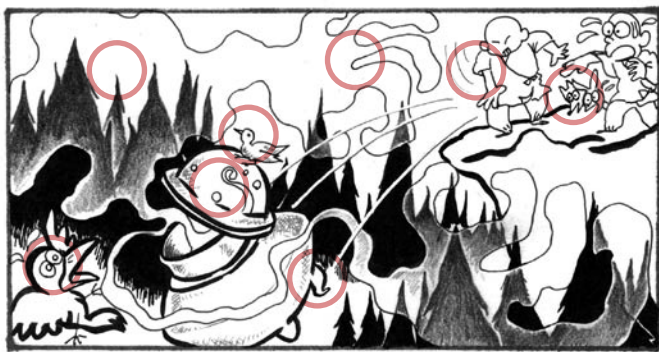
それから間もなくして、村の庄屋杉浦元右衛門が音頭をとって石像をおさめるお堂を建てたそう。

昔、大宮神社前の道を西に進み、柏原から坂野坂を越え、幸田の萩・横落を経て岡崎に至る道がありました。

この道は、西郡の殿様が家を継いで初めて地元に戻った折に、岡崎の滝山東照宮へお参りに行く時に通ったと伝えられています。

街道は、多くの旅人が行き交い、街道沿いの柏原町中原には、旅人が一息つくための茶店もあったと伝えられています。この話は、その中原であった住民と旅人の出来事です。

この話に出てくる薬師様の石像は、現在、柏原町の忠安寺に保管されています。



## ◆3月号の答え

3月号クイズまちがいさがし  
(千鳥の香炉)の当選者  
応募総数74通  
正解者68人  
当選者(敬称略・50音順)  
御幸町 磯部光明  
形原町 小野内華織  
緑町 榊原 雅  
豊岡町 左右田颯斗  
松原町 仁科美恵  
緑町 初芝 忍  
大塚町 平田良樹  
形原町 三田恭輔  
三谷町 村野菜桜  
形原町 山本隆子  
おめでとございます。賞品は5月初旬に発送します。